

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(Aユニット)

事業所番号	2772402307		
法人名	株式会社 おだやか		
事業所名	グループホーム おだやか村野		
所在地	大阪府枚方市村野本町18番17号		
自己評価作成日	令和2年6月30日	評価結果市町村受理日	令和2年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝は、毎日の日課の散歩から始まり、掃除・食事の準備・レクリエーションなど、一日がきれいに流れています。その中で、できる事はして頂き、出来ない事だけの支援をさせていただこうと、スタッフ一同みんなで同じ対応を心掛けています入居者から私たちスタッフが頂く事が、たくさんあります。一番のアピールできるところは、入居者とスタッフみんなが、明るい事です。名前の通り「おだやか」にみんなで楽しく過ごしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは開設以来16年を経過しているが法人とグループホームの理念が整合性を保ち、この間良き伝統として運営者・管理者・職員皆が働き易い環境を構築している。日課のように行っている朝の散歩にある。現状、コロナ禍の中で一時中断しており、利用者の日常生活動作(ADL)の低下を全職員が心配しており、一刻も早く、感染が収まり、気分転換・ストレス発散・五感刺激になり、良好な睡眠につながる散歩を希望している。介護度が高い方でも調理まで手伝っている一連の食事過程では利用者が出る範囲で手伝い、音や匂いを感じながら職員が交代で作る美味しい食事も良き伝統として継続している。ホーム恒例の三大イベント開催や職員が利用者と一緒に作った季節ごとの飾りつけも素敵である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(Aユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・スタッフルームに提示して、スタッフみんなで共有して実践している	法人の理念とホームの理念は整合性を保ち、掲示し、職員への共有を図っている。最近、ホーム独自に毎月のスローガンを作成し、勉強会でユマニチュード(認知症ケア技術)を行い、職員の質向上を図りながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日の散歩時に挨拶・声かけを行う等、つながりができるように努力している。顔見知りが増えています。近所の「喫茶店」も毎年何回か行き居心地の良い場所です。地域交流センターが開催する地域会に参加して交流を深めています。	日々の散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、馴染みの喫茶店やコンビニを利用し、地域の一員として交流を図っている。自治会に加入しており、目下、地域の祭り等への参加を検討したり、近隣の保育園との交流も検討している。ボランティアも受け入れているが拡充も図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部より見学に来られた時など、認知症の理解や支援の仕方のヒントになればとお話させてもらうことがある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、当ホームのサービス・評価への取り組みはもちろん、わかる範囲での医療・介護保険の改定などの情報を伝えている。会議で意見を頂いた時はサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員・家族・地域住民が参加され、年6回開催している。報告事項だけでなく参加者から意見を聞き、運営推進会議に家族も含めたメンバーの拡充も図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時運営について分からない所は市役所に相談してサービスに役立てている	分からないことがあれば市の担当者に電話し、助言を得るようにしている。生活保護者も増えてきており、市に出向き、ケースワーカーとの話し合いを行っている。最近地域包括支援センターが主催する地域ケア会議に積極的に参加し、多職種の人との交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	枚方市役所の指導の下施錠はしているが、勉強会などで知識を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による「拘束」もある事をスタッフは理解している	現状、身体拘束は行っていない。身体拘束適正化に向けてのホームの委員会は運営推進会議と一緒にいき、記録している。マニュアルを整備し、研修も定期的に行っている。身体拘束につながるグレーゾーンの対策としてスピーチロック等も職員への共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で「言葉による暴力」も虐待になるなど、虐待についての知識を含め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	入居者で成年後見人を利用している入居者もいる。これからも必要な方がいれば支援する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかり説明し、わからない事はいつでも質問してもらいやすいような信頼関係を築く努力をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いている。家族の面会時に意見を聞くようにしている。要望を言ってもらいやすいように家族様とも信頼関係を築いている	家族の来訪時には利用者の日々の状況を報告し、毎月写真入りでおだやか通信を送付している。介護計画作成時にはケアマネジャーが自筆で利用者の様子を詳細に記入し、家族に送付している。家族は意見や要望があっても預かってもらっているという理由からホームに意見は言い難いものである。	家族が一番知りたがっている利用者の日常生活動作(ADL)・食事・排泄・口腔ケア・移動・更衣・入浴・夜間の睡眠等の状況や課題の事実を箇条書きに分かり易い言葉で毎月家族に送付し、後日に電話等を使い話し合い、家族が意見を言い易い環境作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に意見・要望・提案を聞き、出来る事は反映させている	ホームは働きやすい環境として勤務時間や資格取得時の給料反映や研修へのシフト反映及び夜間時の勤務体制等を構築し、現状職員不足は感じていない。月1回、ミーティングを行っている。職員は自由に意見等を言える環境にし、管理者は出来るだけ運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得が給料に反映する。労働時間が短いので疲れも少ない。スタッフの休みもほとんど希望通り取れる環境にある。やりがいの部分で職員が行いたい事を聞き、どのようにしたら行えるかを話し合い実行をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修が受けやすいように、シフトに反映している。参加費・交通費は会社負担である。ホーム内でも毎月勉強会を行い、スタッフのケアの向上に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターによる「グループホーム連絡会」の参加により、お互いの情報交換をして、サービスの質の向上に努めている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来ていただいたり、面接に行ったり入居する前にゆっくりと話す機会を設けて、本人の意向を含めた現況を聞き取り、記録している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学・相談を受け付け、家族の意向を含めた現況を聞き取り、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に、今できる必要なサービスを提案している。介護保険サービスに留まらず、行政サービス等も含めた助言や支援を実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本人と一緒にその時々に応じ、生活の全般を共に出来る限り一緒に行うように心がけている。お互いに「有難う」と言い合える関係がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られない家族には、こちらから電話をかけ話してもらするなど、家族との絆を大切にしている。ご家族様よりいただきものをした時は、入居者と一緒にお礼の電話をして、近況報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に会話を心がけ、家族・入居者・スタッフとのいい関係を築き、次回の面会に繋がるように支援している。兄弟等と外で会うときの送り迎えもしている	長いお付き合いをしてきた知人が定期的に来訪され、利用者と楽しく会話されている。ホームは歓迎し、途切れないように支援している。家族の支援で一泊の温泉旅行に行ったり、盆や正月には泊まりは無いが実家に戻る方もおり、馴染みの場所支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が、共同生活での家庭的な環境での良い関係作りが出来る様に支援している。入居者の状態を把握して、場合により席を替って頂くこともある		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去しても状況を知らせてくれる家族もある。退去後も音楽ボランティアで来てくれる家族もある。必要により、相談にのり支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居されてもその人らしさを失わないよう、本人の意向を尊重している。会話が困難な方も表情やしぐさで本人の気持ちを理解するように努めている	入居時にフェースシートに過去の生活歴や趣味を記録し、職員は何時でも見られるように共有している。入居後は利用者に寄り添い、何気ない日常の会話から新たな過去の履歴や思いを把握している。最近ユマニチュードの勉強会も行い個別ケアサービスの進化を図っている。困難な方には本人本位に工夫し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から成育歴や生活歴を聴き取り、馴染みの暮らしが継続して頂けるように把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のそれぞれの日々の言動や行動を観察して、介護記録からも心身の状態を把握して、出来る事は自分でして頂けるように支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らす為に、毎月1回のケア会議を行い情報を共有して、入居者本位の目線で意見やアイデアを反映し、介護計画を作成している	日々、利用者1人ひとりの支援経過と共に、毎月モニタリングを行い、ADL等を把握している。課題はチームで現状に合った介護計画作成につなげている。介護計画の見直しは6ヶ月ごとに行っているが急変や入退院時には変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者全員の日々の様子や実践結果等を記録に残し、再度カンファレンスでスタッフ間で情報を交換し、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調変化などの通院介助及び季節毎に応じた外出介助など、臨機応変に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居後も必要に応じ、出来る限りの支援をしている。枚方市の「生き生きマイレージ」の受け入れをしていて、入居者に喜んでいただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が週に4日あり、急な体調不良者の方にも臨時で対応してもらっている。かかりつけ医を希望される場合は、出来る限りスタッフで付き添っている。	入居時に相談の上、全員が提携医を主治医となった。主治医の内科往診(看護師同行)や歯科医往診(歯科衛生士同行)は月2回である。訪問看護師は毎週1回健康チェックに訪問しているが24時間オンコール体制がとれている。他医科(皮膚科・泌尿器科・精神科)受診時には家族の協力もあるが出来るだけ職員が同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師とは電話でも相談できる関係であり、コミュニケーションもとれ、信頼関係がある。医療連携の為、週1回の訪問看護がある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は出来る限り面会に行き情報を得ている。寝たきりにならないように早期退院にむけ、病院担当者と密に連絡とるように心がけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を出来る限り、受け入れている。「重度化した場合における対応に関する指針」を文章にて家族に説明して同意書を頂いている。その上での話し合いにより、関係者全員に情報共有して、本人・家族が望むターミナルケアを行っている	最近3名の方の看取りをおこない、現在も1名ターミナルの方がいる。コロナ禍であるがターミナルケア対象者の家族のみ特別に許可し、厳重な管理の基、面会出来るよう配慮している。年1回の研修に加え、看取対象者が出た場合は家族・本人の意向を再確認後、ケース会議で具体的な対応を検討し職員間で共有している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを使用して、勉強会を行い、実践力を身につけるように努力している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っている。防災マニュアルに沿っての勉強会も行っているが、地域との協力体制は整っていないのが現実である	災害・避難訓練は夜間想定を含め年2回実施している。防災対策マニュアル・緊急連絡網は整備している。最新のハザードマップにより水害への対策も必要となり、防火管理の勉強会は年1回行っている。非常用の備蓄品として米・水など3日以上は用意しているが今後品目を検討予定である。近隣住民の協力は未だ得られておらず働き掛けを継続して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時に入居者一人一人の対応を確認し実施している。(トイレ介助時はタオルをかける・居室に入る時は必ずノックを少し時間を置いて入室するなど)言葉かけも聞いて心地よい言葉を使っている	管理者は講師として認知症ケア技術「ユマニチュード」を研修に取り入れ職員も介護現場で実践に取り組んでいる。入居者のプライバシー確保や誇りを損なわないよう入浴・排泄・入室時の声かけ・言葉使いやノックには特に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム側が決定するのではなく、入居者が自己決定しやすい状況を提供している。ティタイム時にはメニュー表を用意して指でさしてもらおうこともある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフが業務中心に流されることなく、入居者のペースに合わせて生活してもらえるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は、前日の夜に入居者の希望を聞き準備しておく。特に離床時の整容や身だしなみに気をつける様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けは必ず入居者全員でできるようになっている。出来ない所はスタッフと一緒にしている	配食業者が献立と新鮮な食材を届け、調理は職員が入居者とともにしている。食事タイムを生活リハビリの一環と捉え全員が能力に応じて楽しみながら手伝いをしている。食事中は音楽も止め、静かな中で食事に集中してもらえるよう配慮している。おやつタイムとレクリエーションを組合せた「駄菓子大会」などの様々な楽しいイベントを企画している、	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録・水分表で、一人一人の状態が分かるようになっている。ミキサー食・刻みなど入居者に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導のもと毎食後、個人の状態に合わせた口腔ケアを行っている。必要に応じて、訪問歯科の往診を利用している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて一人一人の状態を見極め、日中は基本的にトイレでの排泄を心がけている	日中はターミナルケアの方のみオムツ使用で布パンツが6名、リハビリパンツは10名でトイレでの排泄を支援している。夜間はオムツ使用は3名である。巡回は1時間ごとに オムツ交換やトイレ誘導を適宜行う。ポータブル利用は現在はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の状態を確認し、便秘気味の方には散歩や体を動かしたり、水分を多く摂って頂くように心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はある程度の希望を優先し、楽しんでもらっている。一人一人に、お湯の温度を確認するなど、入浴を楽しんで頂けるように出来るだけの努力をしている	銭湯気分を出すため暖簾をかけ、職員が自宅から持ち込んだ菖蒲やゆずを入れた風呂で季節を感じてもらっている。希望者には一番風呂に入ってもらうなど入浴を楽しめる工夫をしている。嫌がる場合は次の日にのばしたり、相性の良い職員に担当を変えたり、シャワー浴・足浴に変更するなど無理じいはしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調・状態をみて「昼寝」の声かけをしている。生活のバランスを崩さないように、時間などの配慮にも心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで薬の情報を管理している。服用時は名前・日付等を声に出して、間違えないように注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活においてそれぞれの役割をもってもらい、毎日の生活を楽しく過ごして頂けるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩を始め、外出する機会を増やすように努力している。外食などは、みんなで話し合いお店を決めている	散歩や車での遠出や家族との外出はコロナ下での自粛中であるため、利用者や職員のストレスもかなりあり、筋力や認知機能の低下も顕著である。対策として体操やゲームなどの室内で発散出来るレクリエーションに力を入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは基本的には金庫で預かっている。本人の希望により、お金を所持されている方もいるが、無くしたり、「盗られたり」という現実がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る事は全てしている。物品を送ってきたときは、すぐにお礼の電話をかけお話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けを、毎月入居者と一緒に作成している。共用の場所で入居者の言葉により他の入居者が不快な思いをしているときは、スタッフが話題を変え、楽しい会話になるように支援している	リビング兼食堂は本棚 テレビ ソファなど配置されており入居者が作った大型の手作りオブジェが飾られている。壁面には桜の木の貼り絵やイベントの写真・折り紙が賑やかに貼られ散歩自粛の中、少しでも季節感を感じられる様配慮がみられる。レクリエーションでは、笑い声があふれて和気藹々とした和やかで家庭的な雰囲気が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小さなテーブル・ソファを置き、好きなように過ごして頂いている。気の合った入居者同士で、お互いの居室で過ごす事もある。その時は喫茶店みたいに、好きな飲み物を提供して喜んで頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室は家族の協力を得て、なじみの物や写真・家具を置き、本人が居心地良く、過ごして頂けるようにしている	ベッド・エアコン・カーテンは設置されている。使い慣れた筆筒やコートハンガー・ベッド・テレビ等を自宅から持ち込み、小物や写真・ぬいぐるみを飾り落ち着いた居心地の良い居室となっている。室内は利用者と職員が共に清掃をし清潔で整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力に応じて、出来る限りの事はして頂いている。「便所」「お風呂場」等を明記して、分かりやすく不安を感じないように工夫している		